

105周年記念総会・懇親会を終えて

西羽 晃

桑名高校は明治 43 (1910) 年に桑名郡立高等女学校として誕生して以来、今年で創立 105 周年を迎えた。5 周年ごとの記念総会・懇親会は参加者も多いし、ホテル花水木で行っている。今回は 200 人の参加者を見込み、花水木を予定した。折角の花水木なのに参加者が少ないと、貧弱に見えないかと心配したが、申込み 200 人を超えて、ホットした。実際はドタキャンがあったりして 194 人（来賓含む）となったが、マズマズの人数となった。旧職員の中では内山弘先生、川田（旧姓中川）光子先生がご出席された。同窓生では県女 28 回（91 歳）の方が 2 人、最年少は今年卒業の方が 2 人と幅広い年代の方が参加された。しかし、定時制の方、衛生看護科の方が少なかったのが残念である。

桑高になってからの卒業生は 41 回生までは各年度から 1 人以上の卒業生が参加したが、それ以後の人がすくなかった。若い年齢層の大半はブラスバンドの人たちだった。校歌の伴奏だけのために、重い楽器を持参し、1 万円の参加費を払っての参加のお蔭で会場は若々しく、華やいだ雰囲気醸し出してくれた。

今回の特徴として「うどん部屋」の人たちが受付を始め、会場案内など積極的に行ってくれたので、非常に助かった。「うどん部屋」も 3 年続き、桑高祭名物として定着してきているが、そのノウハウの積み重ねとともに、人材も育成され、単に「うどん部屋」だけでなく同窓会を支える貴重な戦力になってきたのは有難いことである。

総会そのものは型通りの議事進行で、淡々と済んだが、100 周年記念事業が完了し、残金の 170 万円余は本会計に繰り入れとなった。

総会終了後に記念講演があり、38 回生の山中浩二さん（JAXA 宇宙航空研究開発機構勤務）が「宇宙 H T V 開発という挑戦～国際間ビッグプロジェクトの苦悩と実現について～」と題して約 1 時間話してもらった。彼は藤原町出身で桑高へ 2 時間かけて通学したが、現在の宇宙船では同じ距離を僅か 3 秒ほどであるなど、身近な例で判りやすく話してくれた。最近ではアメリカやロシアが失敗する中で、日本は成功を納めており、日本の宇宙開発も優れてきたが、その中枢で彼は活躍している。話を聞いていて、宇宙人が攻めて来たら、地球人は一致団結して防衛できるのだろうか、広い宇宙を見ていると、狭い地球の上で国家や民族で対立しているのは馬鹿らしく感じられる。



山中浩二さんの講演風景

私が同窓会長になって4年間務めさせてもらったが、その仕事は先の100周年記念事業の総仕上げをするためであると、認識していた。幾つかの記念物は学校からの要望の応じて寄贈した。ただ一つ私の要望で桑名市立高等女学校創立の碑を立教小学校の校内に建てさせてもらった。これで前身校の跡地に、それぞれの碑が建った。

そして総仕上げも完了し、残金を本会計に繰り入れることで、私の任務も完了したので、会長を辞任する積りだった。後は引き受けてくれるだろうと考えて、後任体制を考えてもいなかった。ところが、いざ後任の会長候補にと思っ
て人の同意を得られず、私が再任することになった。それで本腰を入れて、次の体制作りの基礎を築いておくのが、私の任務だと認識した。

実際に仕事をするのは理事であり、会則によれば、理事は会長の指名で決定できるのである。同窓会の活性化のためには世代交代が必要であり、全日制の理事には戦後生まれの70歳未満のメンバーを選んだ。女性は従来は1人だけだったが、死去されたので、新しく3人を選んだ。3人とも50歳代前半で「うどん部屋」で活躍された方である。「うどん部屋」の効果の現れの一つであろう。定時制2人、衛生看護科2人はそれぞれで選んでもらった。

11月21日には役員会・懇親会を開き、理事の会務分担を決めて、新しい体制をスタートさせた。